

Weekly-Report

C X 週間展望 (5月24日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

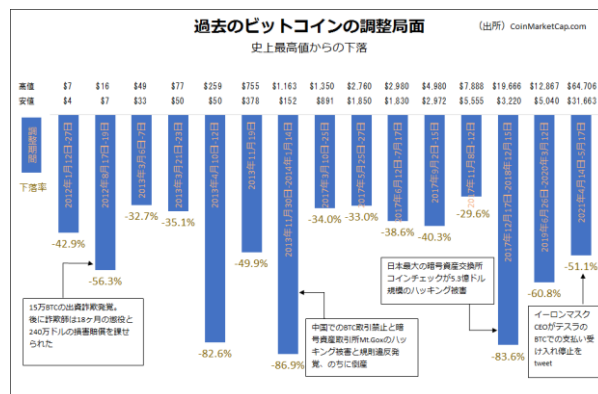
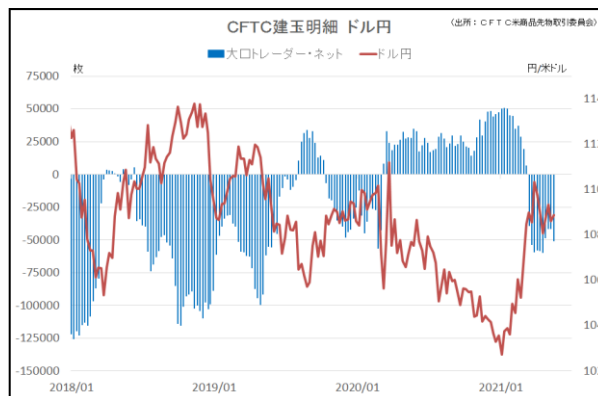
ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「ドル円は、CPIを受け米長期金利の先高観が強まり、日米金利差の拡大を見越した円売り・ドル買いから一時、109円71銭と約1ヶ月ぶりの円安・ドル高水準を付けた。三尊天井の可能性は後退した格好だが、サイクルからはドル円が高値の節目を付けやすい新月の時間帯でもあり、早々に高値更新できなければ、パターン分析の「ダイヤモンド・フォーメーション」もしくは、一目均衡費用の「Y字型」形成からの放れ待ちへ移行しそうだ。

クラリダFRB副議長は12日の講演で物価上昇は一時的との見方を強調し「今後さらにやや上昇した後、年後半には落ち着いていく」との考えを示している。パウエルFRB議長も、「インフレは一時的」との見解を継続している」としたが、18日発表の4月の米住宅着工件数が前月比9.5%減と市場予想(2.2%減)以上に減少。労働力不足や資材価格の高騰が背景にあり、供給制約が米景気の足かせになると懸念された。米金融緩和の長期化観測から対主要通貨でドルが売られた。インフレ期待が強まる中、名目金利から期待インフレ率を引いた実質金利が低下基調にあることや、暗号資産(仮想通貨)ビットコインの価格が19日に急落し、円買い・ドル売りが続いたが、4月FOMC議事録で米債などの資産購入の縮小の議論開始について話し合われていたのが明らかになり、米長期金利が上昇。テーパリングが市場の想定より早まる可能性が意識され、日米金利差の拡大を見込んだ円売り・ドル買いから小反発となった。

週末にかけて為替市場では振幅を伴いながらもドル指数が低下傾向を維持。特にユーロドルやポンドドルの底堅さが目立った。米債利回りの上昇一服に対して、欧州債利回りが上昇している。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

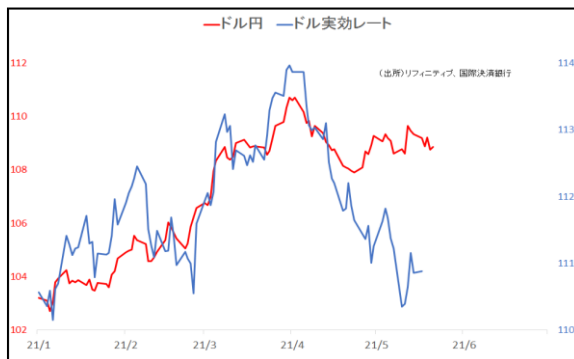
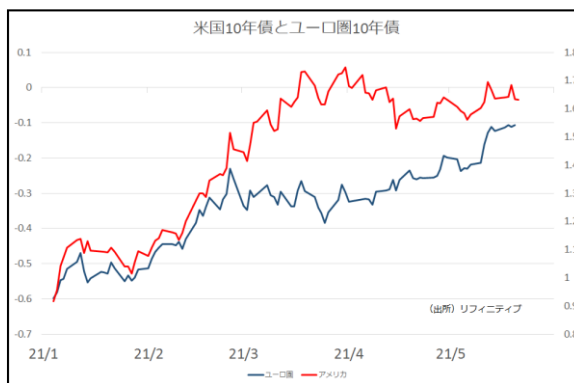
週末のドル円は、小反発。5月の米購買担当者景気指数(PMI)速報値は過去最高。米国景気の強さが改めて意識され、対主要通貨でドルが買われた。ただし、中国政府が暗号資産(仮想通貨)ビットコインに関する規制を強化する方針を発表し、ビットコインが1割あまり下落した事を受け、ナスダック総合株価指数が下落。リスク回避の動きからの円買いもあり、ドル円の上値は限定的。

CFTC建玉明細(5/18現在)は、50,948枚の売り越し。前週(4/1,728枚の売り越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

FOMC議事録を受けて、一部で早期のテーパリング観測が浮上したものの、パウエルFRB議長は、これまでに量的緩和の縮小(テーパリング)の「議論を始めるのは時期尚早」との見解を繰り返しており、最近の米経済指標は物価指標を除くと予想から下振れしているものが多く、米長期金利上昇や、ドル買いにつながりにくくなっている。

実効レート乖離もあり、ドル円は下値リスク(円高ドル安)の方が大きい。狭いレンジ相場が続いており、放れ待ち。



金標準先物(5/21 清算値:6,555円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《バーナンキショック時の10年債利回りを振り返ってみると、バーナンキFRB議長の発言後に金利は上昇したが、実際のテーパリング（金融緩和の段階的縮小）が始まってからは、金利は下落傾向を辿った。

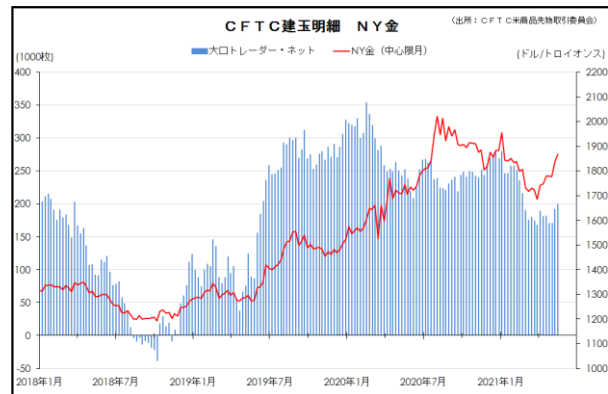
今回も非常に似通った足取りを描いており、このまま自己相関の強い流れが続くなら、金（GOLD）の下値は限定的となろう。テーパリングの時期も早くても来年以降と見られており、ドルの上値は限定的となる。この場合は、緩やかな金の上昇が続くだろう。

一方、米国とイランの核合意復帰交渉が決裂、中東情勢の緊張が増し、供給障害を伴う地政学リスクが高まったり、米国の穀倉地帯が夏場に干ばつなどに見舞われた場合、急速なインフレ懸念の高まりから、金相場は「安全資産」「インフレヘッジ」などの顔を再評価され、急速な上昇を見せる可能性もあるだろう。

～中略）。高騰を見せる商品相場の中で相対的な割安感のある金相場は、下値は限定的、上値余地は、スピード感の違いだけかもしれない」としたが、先週のNY金（6月限）は、NY連銀製造業業況指数が事前予想を上回ったが、米長期金利の落ち着きなどを背景にドル安に振れ、堅調となった。また来月の欧州中央銀行（ECB）理事会でパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の購入ペースの減速が示唆されるとの見方からユーロ高に振れたことも支援要因になり、2020年8月高値を起点とした下降トレンドと重なる200日移動平均線を上抜き、上げ加速となった。

週末にかけてビットコインを始めとする暗号資産が急落する中、金に押し目買いが入ったが、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨で、一部のメンバーから、経済の急速な進展が継続すればテーパリング（量的緩和の縮小）を巡る討議を開始することが適切になるとの見方が示され、金融緩和の縮小が意識され、米長期金利上昇を嫌気。上げ一服となった。

ただし、米長期金の上昇は続かず、200日移動平均線を維持して、押し目は限定的だった。



3
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金標準先物(5/21 清算値: 6,555円)(2)**【週末のNY市場】**

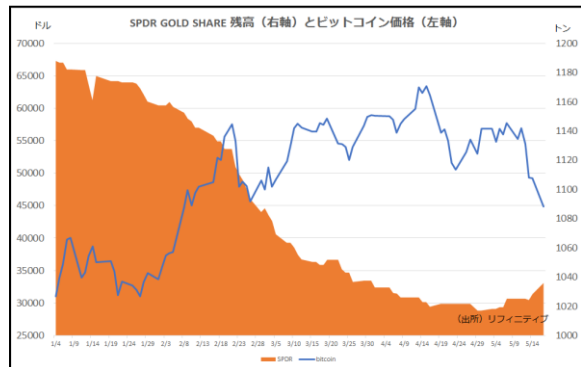
週末のNY金(6月限)は、反落。5月の米製造業購買担当者景気指数(PMI)とともに、米サービス業PMIが一段と上昇し、統計開始以来の最高水準を更新したことからドルが強含んだことが重しとなった。

CFTC建玉明細(5/18現在)は、198,889枚の買い越し。前週(192,255枚の買い越し)から拡大。

**【今週見通し・戦略】**

4月FOMC議事録を受けて、年明け早々にもテーパリングが始まるのではないかとの観測もあるが、2013年のバーナンキショック時では、実際のテーパリングが開始してからは、金利は反落。「知ったら終い」で低下傾向を辿った。

ユーロ圏もワクチン接種の進展に伴い、6月ECB理事会に向けて出口戦略への移行も意識され、ユーロドルも堅調推移を見せている。春先の金の下落局面では、中国やインドなどの実需買いが下値を支えた。また、金ETFから資金流出が続いていたが、テスラCEOのイーロンマスク氏発言に伴うビットコインの乱高下や、バイナンス・ホールディングスが米司法省と内国歳入庁(IRS)による調査(税務とマネロン)を受けたことや、米証券取引委員会(SEC)が、ビットコインは「非常に投機的な」資産であると述べる文書を公開したことに続いて、中国の金融業界団体が5月18日、金融機関による暗号資産関連サービスの提供を禁止する規制策を発表したことなどから、暗号資産は大幅続落、金ETF残高は増加傾向。CFTC建玉明細の大口投機玉も、年初に大きく膨れ上がっていた買い越しの整理が進み、新たに買いを積み増しやすい内部要因となっている。短期的な買われ過ぎ感に対する調整をこなしながら、中長期上昇トレンドが継続しそうだ。



4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

日産証券

CX週間展望(5月24日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(5/21 清算値:6,555円)(3)

オシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示しており、テクニカル的な調整局面も想定されるものの、4月安値を起点とした上昇トレンドとも重なる価格帯別出来高の厚い心理的節目1800ドル水準を割り込まない限りは、押し目買い基調は継続。



2021年1月には、RSIが70を超えて短期的な買われ過ぎ感から調整に入った。

2020年7月~8月にかけては、RSIは短期的な買われ過ぎ感を示す高水準を維持したまま、高値更新した。強い相場(大相場)の時は、オシレーター指標は、往々にして買われ過ぎ感(高水準)を示したまま、価格は上昇するが、2020年に史上最高値を付けた時は、このパターンであった。トレンドの勢いを表すADXも強いトレンドを示す30を超えていた。

2021年1月の際は、RSIは70を超えていたものの、トレンドの勢いを表すADXは低水準だった。今回はRSIは70を超えているが、ADXも30を超えており、トレンドの勢いは強い。2020年8月高値~2021年3月安値までの下げ幅に対する半値戻し(1894.4ドル)で上値が抑えられているものの、深押しなく61.8%戻し(1946ドル)を試す可能性もあろう。

OSE金のMACでは、4月19日にヒットした買いのトリガー継続。LMA(6450円)~HMA(6508円)を下値支持帯とした上昇トレンド継続。ストキャスティクスは、逆行減少でダブルトップ形成。



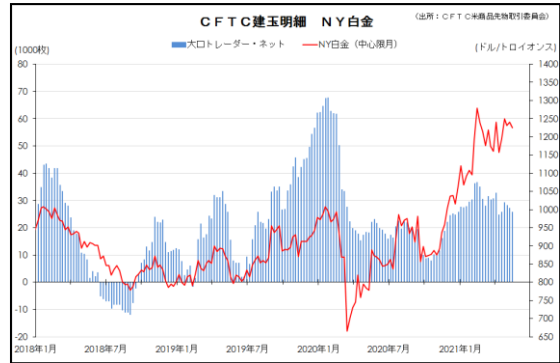
はらみ足形成で、20日の上ヒゲ高値~下ヒゲ安値のレンジを下抜けると、一時的に下げ加速も要想定。

-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金先物(5/21 清算値:4,220円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「半導体問題が、金と比較して上値が重い一因だが、レモンド米商務長官は、半導体不足を巡る問題について協議するため、20日に自動車業界など関連業界の幹部と会合を開く予定」としたが、先週のNY白金(7月限)は、ドル安や金堅調に加えて、ワールド・



プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)の四半期報告で、2021年第1四半期は世界経済の回復による需要増加や投資需要の継続を受けて1トンの供給不足となった。また2021年は需要が5%増の250トンと予想され、5トンの供給不足と3年連続の不足が見込まれた事が材料視されて始まったが、ジョンソン・マッセイ(JM)報告で、パラジウムとロジウムは今年、国際市場で再び供給不足に陥るとの見通しが示されたが、白金市場は61万5000オンスの供給過剰に転じると予想されたことを嫌気して反落。

FOMC議事要旨で、一部のメンバーから、経済の急速な進展が継続すればテーパリング(量的緩和の縮小)を巡る討議を開始することが適切になるとの見方が示され、ドル安一服や株安を受けて軟調となった。テスラCEOのイーロンマスク氏発言に伴うビットコインの乱高下や、中国の金融業界団体が5月18日、金融機関による暗号資産関連サービスの提供を禁止する規制策を発表したことなどから、暗号資産は大幅続落となった。

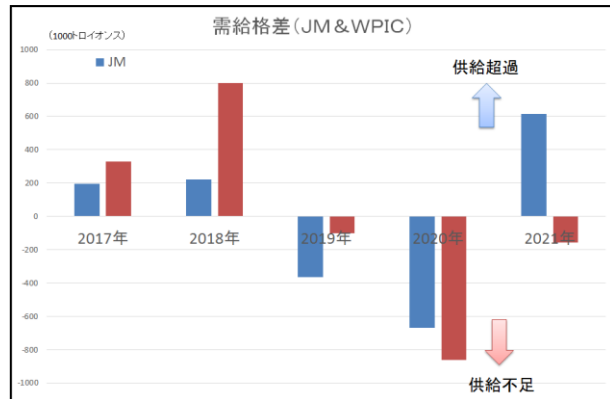
週末のNY白金(7月限)は、反落。金の下落やドル高が重しとなった。マークイットが発表した5月の米製造業購買担当者景気指数(PMI)とともに、米サービス業PMIが一段と上昇し、統計開始以来の最高水準を更新したことがドルを押し上げた。

PMIが示すように米企業景況感是一段と好転しているものの、工業用の需要回復期待がプラチナ相場を押し上げるような展開にはなっていない。

CFTC建玉明細(5/18 現在)は、25,814枚の買い越し。前週(27,267枚の買い越し)から縮小。

白金先物(5/21 清算値:4,220円)(2)**【需給見通し(WPIC&JM)】**

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)の四半期報告によると、2021年第1四半期は世界経済の回復による需要増加や投資需要の継続を受けて1トンの供給不足となった。世界の景気回復に伴い、工業、自動車、宝飾品を中心に需要が増加した。また2021年は需要が5%増の250トンと予想され、5トンの供給不足と3年連続の不足が見込まれている。



JM(ジョンソン・マッセイ)白金族需給調査報告書「Pgm Market Report May 2021」によると、自動車触媒需要は27%増加するものの、2021年のプラチナ市場は供給過多に戻ると予想される。コロナウイルスによる混乱が収まり、また処理設備の稼働停止により蓄積した仕掛品が処理されるため、南アフリカのプラチナ供給は40%近くの急回復を示す見通し。

プラチナ価格上昇により日本の投資用地金需要は2021年初めにマイナスに転じ、上場投資信託(ETF)への投資も抑制された。中国の小売業者は2020年後半にプラチナ宝飾品の在庫を増やしたが、金との価格差が縮まったため、販売量は鈍化している。

【今週見通し・戦略】

2021年の需給予想は、WPICが供給不足、JMが供給超過と分れたが、いずれも2020年と比べて需給タイト感は後退している。

金との鞘は、ポリンジャー%Bのクロスを伴い下放れしており、 $-\sigma$ 突破では、逆張りではなく、順張りで

「金買い・白金売り」ポジション継続の格好。バンドウォークが継続する間は、流れに逆らわない。

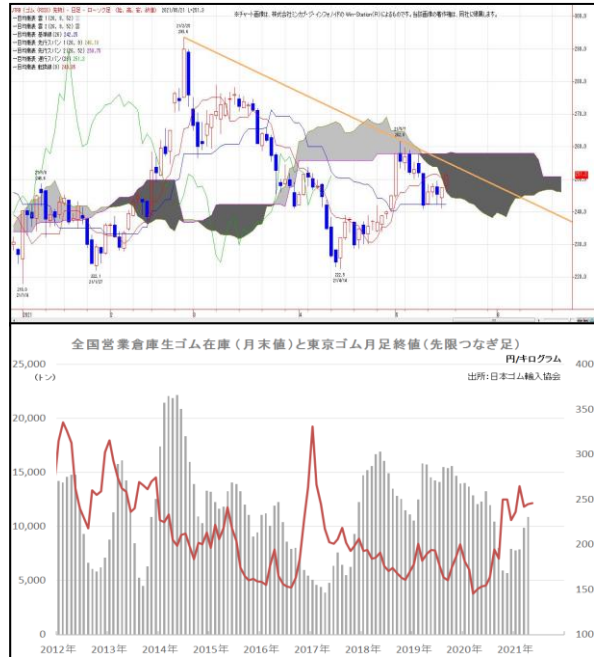


-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴムRSS3(5/21 清算値:251.3円)**【先週レビュー】**

先週レポートで《中国自動車工業協会(CAAM)が発表した4月の自動車販売台数は前年比8.6%増の225万台となり、これで13カ月連続増となった。ただ、中国の3月の自動車販売台数は253万台であり、前月比では減少となった。これは半導体不足の影響。中国の全国乗用車市場情報連合会(乗連会)は、5月の中国自動車販売、自動車用半導体不足の影響から、前年比の伸びが抑えられるとの見解を出している。

4月安値~5月高値までの上昇に対する半値押し達成。61.8%押しの237.6円が試される流れ》としたが、先週のRSS3号は、中国国務院が商品価格の「不合理な」上昇を抑制し販売価格への転嫁を防ぐために、需給両面の管理を強化する方針を示したことから石炭・鉄鉱石等につれて、上海ゴムも急落した事に追随したが、週末にかけては売り方の買戻しが入り、戻り歩調となっている。

**【全国生ゴム営業倉庫在庫】**

全国生ゴム営業倉庫在庫は、5月10日現在11,283トン(前旬比387トン増)。5月上旬の入出庫は入庫698トン、出庫311トン。

【今週見通し・戦略】

ゴムRSSは、産地対比の割安感を背景に下値が支えられている一方、ウィンタリング明けが近づいており、在庫も増加傾向で上値も限定的。先限は250円を中心とした保合い形成後、放れ待ちへ移行か？

4月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比218.6%増の86万2226台。昨年の急減に対する反動で急増。1~4月は前年同期比24.4%増の342万2439台となった。

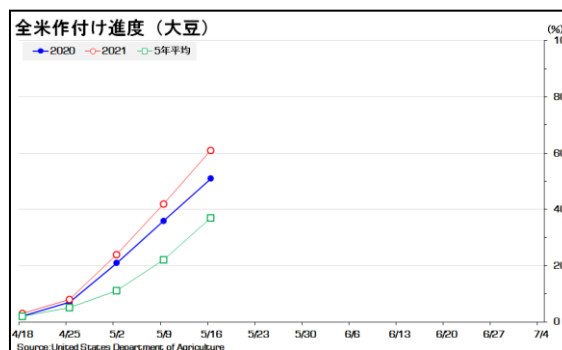
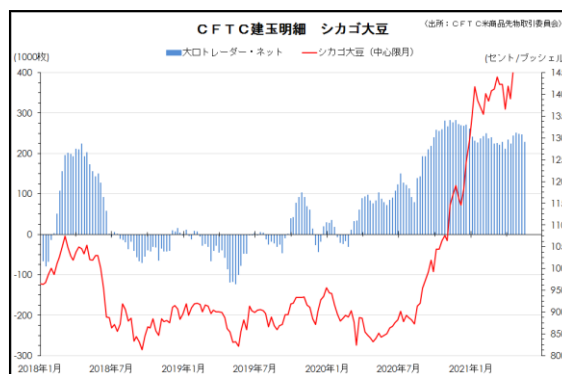
8
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

一般大豆先物(5/21 清算値:50,000 円)**【先週レビュー】**

先週レポートで「大豆の最終生産高に大きな影響を与えるのは8月の産地の天候であり、それまでは、低在庫率を背景に、レイショニング（価格上昇に伴う需要減少）が確認されるまでは、押し目は買われやすい地合いが続きそうだ」としたが、先週のシカゴ大豆（7月限）は、米産地で気温が上昇するうえ、平年を上回る雨量が見込まれていることに加え、作柄報告で、作付の進展が確認出来たことが弱材料となった。

週末のシカゴ大豆（5月限）は、続落。前日の週間純輸出成約高が低調だったことや、米コーンベルト東部を中心に作付けや生育が進展しているとの見方で上値が重くなった。

CFTC建玉明細（5/18 現在）は、228,341枚の買い越し。前週（245,908枚の買い越し）から縮小。

**【週間純輸出制約高（4月29日までの一週間）】**

35万8200トン（事前予想レンジ：10万～80万トン）

【週間作物進捗報告（5月16日までの週）】

作付け：61%（前週42%、前年51%、平年37%）

発芽：20%（前週10%、前年16%、平年12%）

【今週の見通し・戦略】

順調な作付・生育が調整安の背景だが、記録的な低在庫率には変わりはなく、最終生産高に大きな影響を与える8月までは、大きな突っ込みは買われやすい地合い。

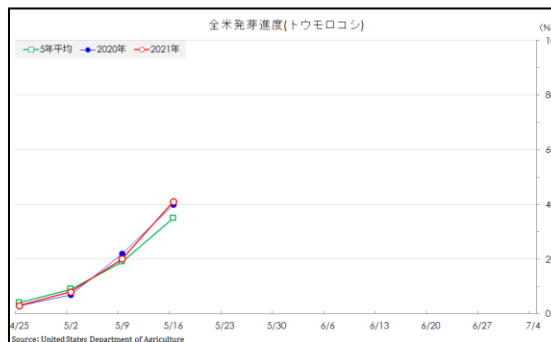
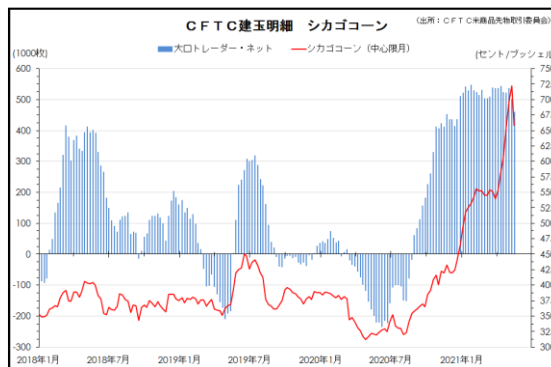
とうもろこし先物(5/21 清算値:33,880円)

【先週レビュー】

既存レポートで「調整局面入りだが、天候相場の天山と言われる独立記念日の7月までは、生育が順調に推移するか、レイショニングが確認されない限り、押し目は買われやすい地合いが続きそうだ。安値売込みは避けたい」としたが、先週のシカゴコーンは、産地の気温上昇と降雨見通しを受けた作付及び生育ペースの上昇見通しが弱材料となり、新穀限月が売り優勢となった。

週末のシカゴコーン(7月限)は、反落。米コーンベルト東部を中心に作付けや生育が進展しているとの見方で大豆同様に上値が重くなった。また前日の急伸もあり、週末を控えて手じまい売りも出やすくなった。一方、ブラジル産地のサフリーニャ(二期作)コーンの生育懸念は引き続き下支え要因となった。

CFTC建玉明細(5/18 現在)は、459,478枚の買い越し。前週(500,856枚の買い越し)から縮小。



【週間純輸出制約高(4月29日までの一週間)】

24万3600トン(事前予想レンジ:55万~120万トン)

【週間作物進捗報告(5月16日までの週)】

作付け:80%(前週67%、前年78%、平年68%)

発芽率:41%(前週20%、前年40%、平年35%)

【今週の見通し・戦略】

天候次第では5月高値を上抜くリスクは残る。一方、天候相場の天王山と呼ばれる独立記念日前後までは600¢が下値支持として意識されそう。

Weekly-Report


日産証券
CX週間展望(5月24日~)

調査課 菊川 弘之

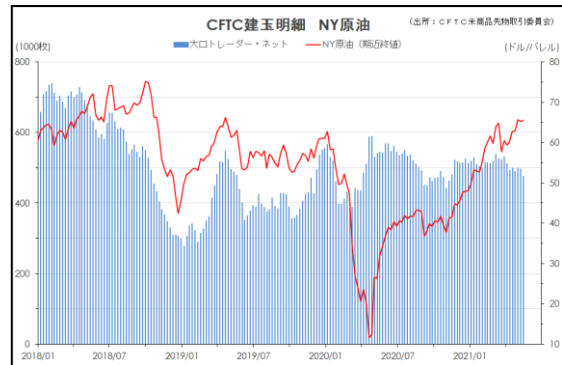
東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「バイデン政権の対イラン政策が、オバマ政権よりは厳しく、トランプ政権よりは緩いと見られることもあり、ここにきて中東で新たな枠組みへの動きが相次いでいる。4月9日、イラクのバグダッドで、イランとサウジアラビアの代表者が、2016年に断交して以来初めて会談した。4月30日には、バイデン大統領とモサド(イスラエル諜報特務局)のコーエン長官がワシントンで会談。イスラエルによるイラン核施設へのサイバー攻撃にも関わらず、核合意維持に向けた合意当事国の英仏独中口とイランの会合が継続協議されており、米務省高官は5月6日、イラン核合意維持に向けた交渉について、6月18日のイラン大統領選までの妥結は可能とする見方を示した。一方、イスラエル・パレスチナの報復合戦が激化している。イスラエルの組閣難航とパレスチナの選挙延期を受け、互いに強硬姿勢がエスカレートしている。このような中、米国がイラン核合意に復帰できるなら、高騰している原油市場に落ち着きが出る可能性はある。イスラエルは、イランの核開発を遅延させ、その間にイランの体制転換の可能性を追求することを考えていると思われ、米国の核合意復帰には賛成と見られる。一方、合意できずとなれば、原油市場の上値リスクは高まるだろう」としたが、先週のNY原油(6月限)は、新型コロナウイルスのワクチン接種が拡大する欧州や米国の経済活動が正常化に向かっており、石油需要が上向き見通しであることから堅調で始まったが、トランプ前政権が離脱したことで崩壊したイラン核合意の再建に向けて、イランと米国の交渉が大詰めを迎えていると伝わり、イランが増産する可能性が警戒され反落した。制裁解除によってイランは日量200万バレル近くの増産が可能と見られている。

インドや日本のほか、タイやベトナム、台湾などアジアで、新型コロナウイルスの流行が拡大していることも重し。インドの感染爆発は5月上旬でピークアウトしたが、日々の感染者数は25万人超で推移している。

FOMC議事録では、一部の参加者が経済の急回復が続くならば資産購入の縮小をいずれ協議することになるとの認識を示し、長期金利が上昇、株価が下げ幅を拡大した事も一因。



東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(6月限)は、反発した。イラン核合意の協議が進展し、同国の原油輸出が再開されるとの見方から前日までの3日間に6%超下げ、21日未明には一時61.56ドルと4月下旬以来の安値を付けた。短期的な売られ過ぎ感が高まる中、核合意の協議が妥結するには時間がかかるとの見方や、新型コロナウイルスのパンデミックを乗り越えた後の世界的な需要回復でイランの増産分は吸収可能とみられていることが相場を押し上げた。制裁開始前の生産量と現状の水準を比較すると、日量で約150万バレル程度の増産になる見通し。



米海洋大気局(NOAA)は20日、今夏のハリケーンシーズンは6割の確率で例年より活発になるとの見通しを示したことは支援要因。21日には石油施設の集中する米メキシコ湾岸の低気圧が週末にサイクロンに発達する可能性が高まったとの予報が出た。ハリケーンによって石油関連施設が被害を受けた場合でも、バイデン米政権が脱炭素社会を目指していることで石油企業が復旧に十分な資金を投下しないリスクもある。

マークイットが発表した5月の米購買担当者景気指数(PMI)が統計開始以来の最高水準を更新し、米景気回復見通しがさらに鮮明となっていることも買い戻しを後押しした。

CFTC建玉明細(5/18現在)は、475,947枚の買い越し。前週(496,561枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが21日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油と天然ガス掘削リグ稼働数は前週比2基増の計455基と、4週連続で増加し、2020年4月以来の高水準となった。原油高で、一部業者が掘削活動を再開した。

このうち、石油掘削リグ稼働数は前週比4基増の356基、天然ガスは同1基減の99基。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月24日~)

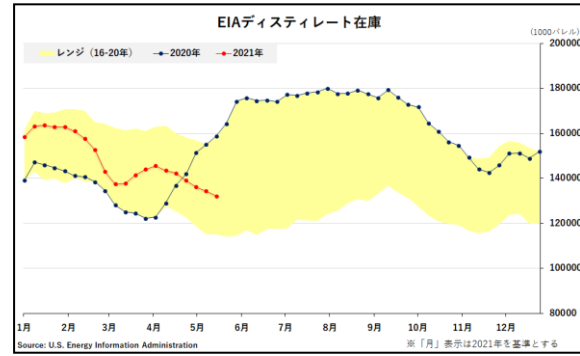
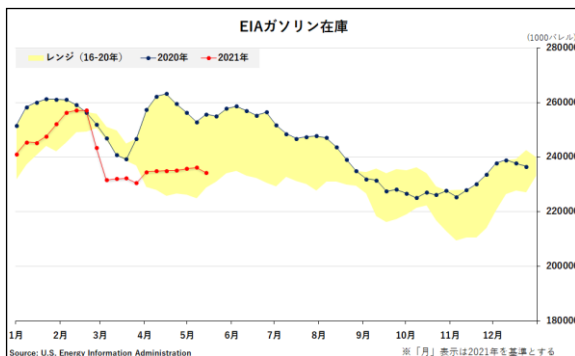
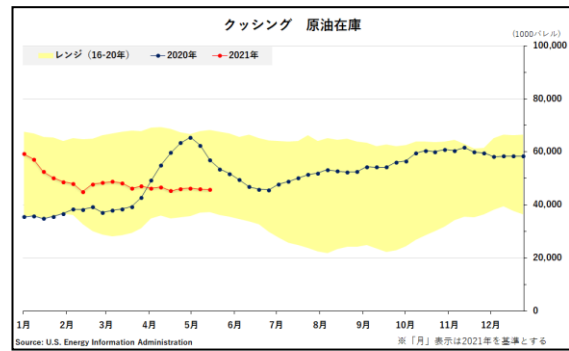
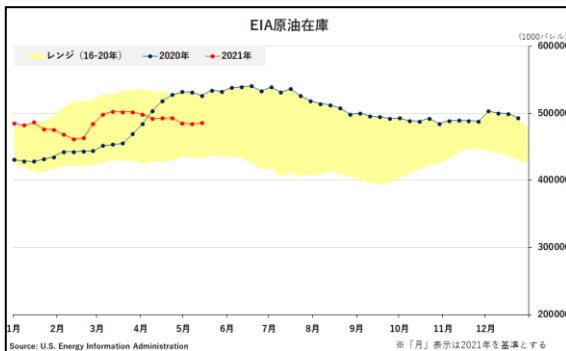
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億8601万バレル	132万バレル増加
クッシング	4576万バレル	14万2000バレル減少
ガソリン	2億3423万バレル	196万3000バレル減少
留出油	1億3210万バレル	232万4000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(2日~8日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比0.4%減の191万5368キロリットル。灯油在庫は、同3.8%増の149万2671キロリットル。週間原油処理量は7.2%減の249万8759キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが同7.8%減の72万0465キロリットル、灯油が同6.6%増の11万8446キロリットル。

-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

東京原油(4)

【見通し・戦略】

イラン核合意の当事国は19日、合意修復に向けた会合を開催した。イラン核合意の再建協議が大詰めを迎えていることから、イランの供給拡大見通しが相場を圧迫した。米国との交渉に基づいてイランが核合意の枠内に戻れば、米国はイランに対する原油制裁を解除し、各国の石油企業はイランと自由な取引が可能となる。

イランのロウハニ大統領が20日、「米国はイラン産原油への制裁解除を受け入れた」と述べたとロイター通信が報じた。「欧州の関係者らは、協議は進展したが課題は残るとの姿勢を示した」とも伝わったが、協議進展の方が意識された。

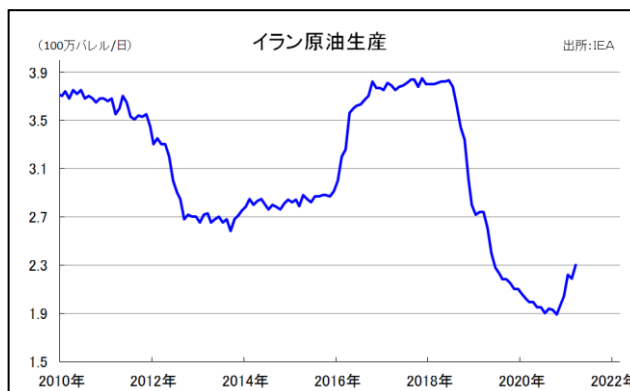
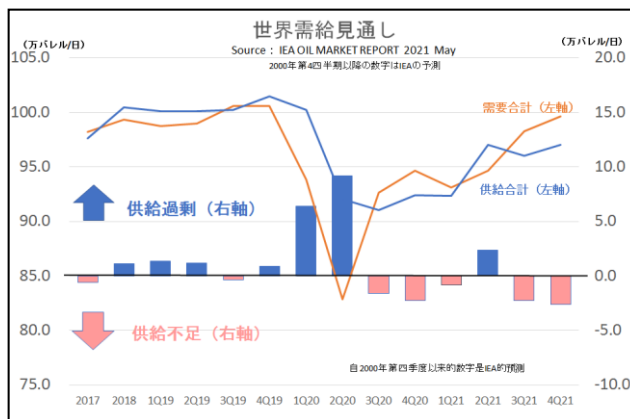
制裁開始前の生産量と現状の水準を比較すると、日量で約150万バレル程度の増産になる見通し。

アジアで新型コロナウイルスの流行が拡大していることは世界的な需要回復見通しを後退させている。マレーシアでは一日あたりの感染者数が過去最多となった。タイやベトナムでも感染が拡大している。

イランの核合意再建に向けた交渉が早期合意に達した場合、今年下半期の原油価格は、下振れリスクがある。3月安値を割り込むと、ダブルトップが完成する。65ドル±5ドルレンジが5ドル程度、下振れする可能性も。

2015年以降、70-75ドル水準が上値抵抗帯として機能している。

米国は、中東と中国と言う両面作戦は避けたく、株価維持のためにも、インフレ懸念の高まりに伴う金利上昇も避けたいと思われる。イランと敵対するイスラエルも、イランが核兵器を保有するリスクは避けたいと考えている。



Weekly-Report



C X 週間展望 (5月24日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (5/24~5/30)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
5月24日(月)	15:00	ドイツ	Q1	国内総生産(GDP)改定値(前期比)季調値
	15:00	ドイツ	4月	輸入物価(前月比)
	17:00	ドイツ	5月	IFO業況指数(新)
	19:00	イギリス	5月	CBI小売売上高
5月25日(火)	22:00	米国	3月	ケース・シラー20(前月比)季調値
	23:00	米国	4月	新築住宅販売戸数
	納会	日本	---	ゴム(RSS3)2021年5月限納会日
	納会	日本	---	東京石油製品2021年5月限納会日
5月26日(水)	納会	日本	---	小豆2021年5月限納会日
	納会	米国	---	NY銀2021年5月限納会
5月27日(木)	15:00	ドイツ	6月	GfK消費者信頼感指数
	18:00	ユーロ圏	5月	業況指数
	21:30	米国	4月	耐久財受注
	21:30	米国	Q1	国内総生産(GDP)改定値
	21:30	米国	Q1	コア個人消費支出(PCE)価格改定値
	21:30	米国	月17日, 週	新規失業保険申請件数
5月28日(金)	23:00	米国	4月	中古住宅販売仮契約指数(前月比)
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細
	8:30	日本	5月	東京都区部コア消費者物価指数(CPI)(前年比)
	8:30	日本	5月	東京都区部消費者物価指数(CPI)総合(前年比)
	8:30	日本	4月	有効求人倍率
	8:30	日本	4月	失業率
	18:00	ユーロ圏	5月	景況感指数
	18:00	ユーロ圏	5月	製造業景況感指数
	18:00	ユーロ圏	5月	サービス部門景況感指数
	18:00	ユーロ圏	5月	消費者信頼感指数 確定値
	21:30	米国	4月	個人所得(前月比)
	21:30	米国	4月	実質消費支出(前月比)
	21:30	米国	4月	消費支出(前月比)季調値
	21:30	米国	4月	コア個人消費支出(PCE)価格指数(前月比)
	22:45	米国	5月	シカゴ地区購買部協会景気指数
	23:00	米国	5月	ミンガン大 消費者信頼感指数 確報値
	納会	米国	---	NYヒーティングオイル2021年6月限納会
納会	米国	---	NYガソリン2021年6月限納会	
		米国		予算教書
5月29日(土)				
5月30日(日)				

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

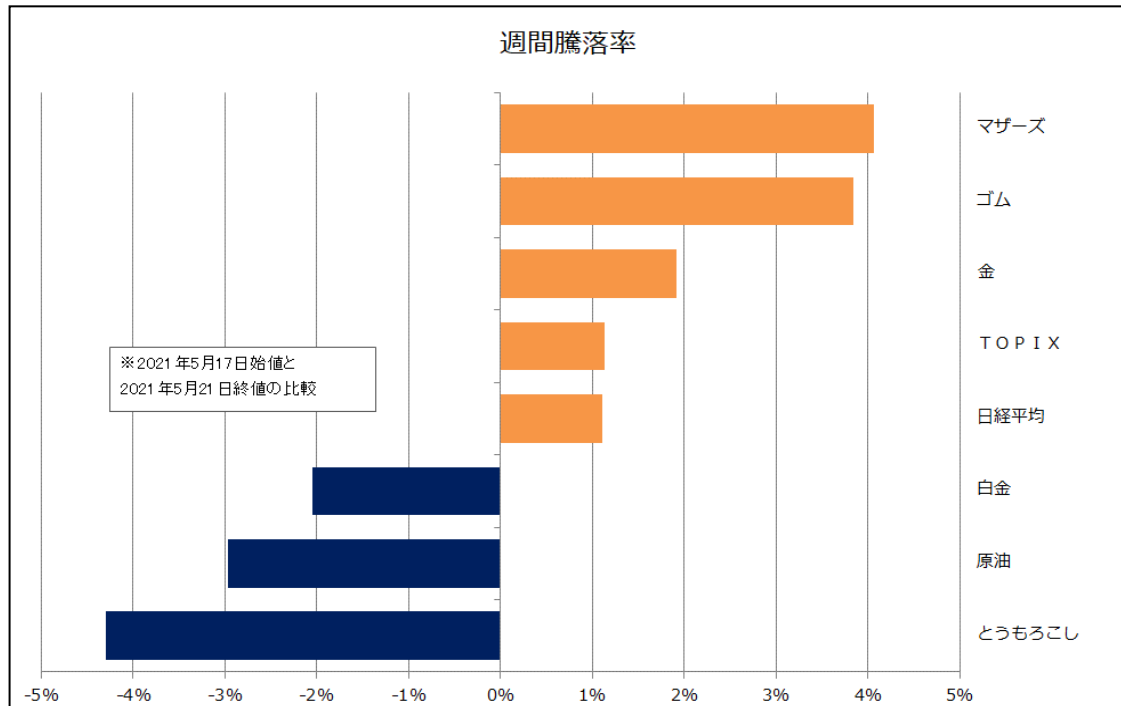
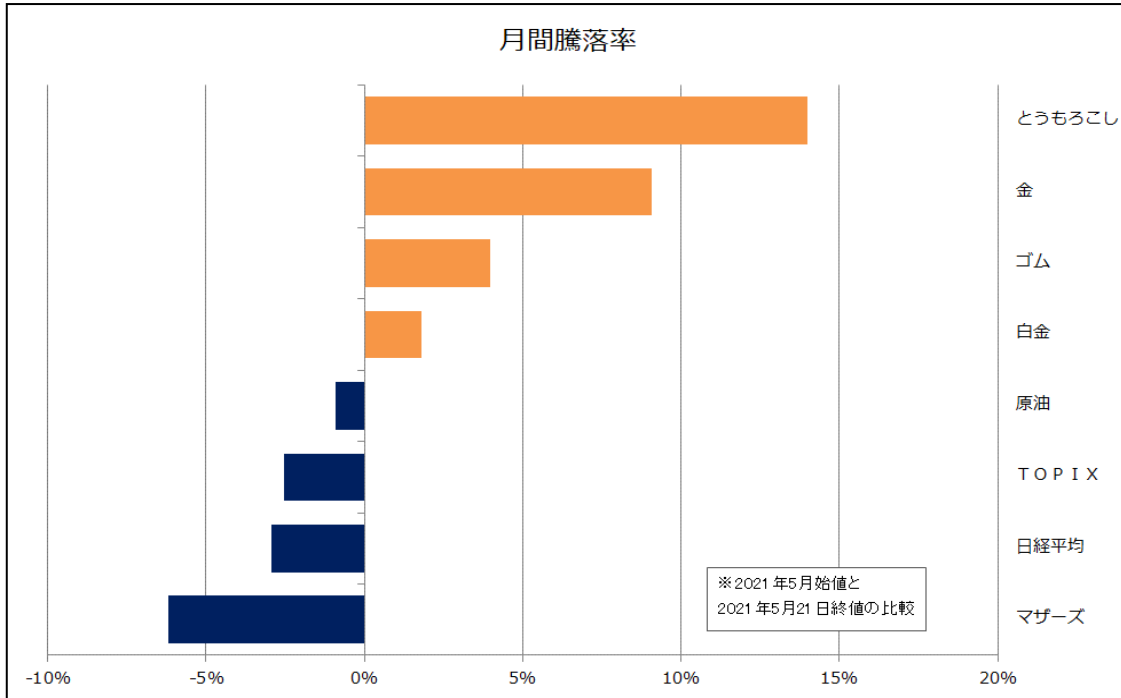
Weekly-Report



CX週間展望(5月24日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



16
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社 (〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11)

関東財務局長 (金商) 第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。